

地域貢献・連携プロジェクト事業終了後報告

旭川校・芳賀 均

1. プロジェクト名および概要等

プロジェクトの概要	<p>○「地域貢献・教員養成としての出前音楽演奏『道北おとぼけキャラバン』」</p> <p>へき地をはじめとする地域の児童生徒を含む方々、および、教員養成課程の学生、双方に対して意義（前者には学習意欲の向上や生涯学習、後者には教員養成として）をもつ、アウトリーチによる地域貢献としての音楽演奏および音や音楽に関わる開発的実践等を含む出前授業である。平成 26 年度より、出前授業・演奏会等をのべ 160 回以上行った。通算の参加学生数は 700 名弱となる実践である。</p>
プロジェクト実施者（含学生）の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・芳賀均：全体の企画、運営、渉外、内容に関する指導・助言、研究 ・学生（主に音楽分野所属）：演目の内容に関する企画、演奏、授業の補助
地域・学校に果たす役割と期待される成果	<p>生の音楽演奏や開発的な実践に触れる機会が決定的に少ないへき地を中心とした地域において、文化的な啓発事業となる。特に学校においては、実物や多様な授業方法に触れることで、児童生徒にとっては関心・意欲の向上、教員にとっては授業方法の参考とすることにつながる。ひいては、それらが地域の創造性につながる事が期待される。</p>
学生資質向上・教職資質向上に果たす役割と期待される成果	<p>本実践に関わった学生の意識が変わることが明らかになっており、そのことは、以前より学会発表等や新聞報道において公表している。教員養成としての効果が大きい実践である。例えば、「へき地を中心とした地域に対する『興味・関心』『愛着・親近感』が高まる」「実践の全てについて反省することを通して『教員としての資質や能力』が高まる」「実践について肯定的な感想を抱くことで、児童生徒や地域の方々に対する関わりを継続したいという気持ちが育まれる」といったものである。学生からは、教職への意欲が高まったという感想が安定的に得られており、今回も同様であった。</p>
キャンパス及び大学への貢献	<p>新聞報道等がなされ、本学の名を世に知らしめている。また、過去には、ホームページを見て本実践への参加を希望した受験生が本学に入学している。学生からは、「教育大に入って、実践的な教育の勉強をたくさんできていて嬉しい」といった言葉が聞かれる。また、北海道教育大学と北海道新聞社との提携事業である「道新ことも未来キャンパス旭川」実施につながり、道央・道北などから 15 人の参加があった。</p>

エビデンスとしての効果の検証方法と予想される結果	<p>これまでの実践結果等は、「学生資質向上・教職資質向上に果たす役割と期待される成果」欄に記載したような成果が得られている。参加学生の教職への意欲が高まることや、学校・自治体からの依頼が継続的に来ることが予想される。なお、こうした内容については、過去に分析も行った上で、論文化した（北海道教育大学紀要（教育科学編）71(1)、72(2)）が、コンスタントにダウンロードされている。</p> <p>先述「キャンパス及び大学への貢献」欄に関わることであるが、ホームページ等を見て本学への入学を志し、入学後に実践を継続し、充実した学生生活を送るとともに、教員養成としての効果を高めている学生がいる。</p>
--------------------------	---

2. 実践の記録

「学長戦略経費（地域貢献）」「教員研究費」「へき地・小規模校教育研究センタープロジェクト費」その他の予算科目の組合せによって実践した

5/7（火）	滝川市立滝川西小学校	道北おとぼけキャラバン[テクノロジー]「警報音を作ろう」
6/14（金）	東神楽町東聖スマイルキッズクラブ	道北おとぼけキャラバン「学生楽団」放課後音楽会
8/21,22,29（水・木・木）	深川市立深川小学校	道北おとぼけキャラバン [STEAM] in 深川「裏柱振木琴チャイムをつくる」
8/27,28,9/17（火・水・火）	留萌市立緑丘小学校	道北おとぼけキャラバン [STEAM] in 留萌「裏柱振木琴チャイムをつくる」
9/2,9,12（月・月・木）	中頓別町立中頓別小学校	道北おとぼけキャラバン [STEAM] in 中頓別「裏柱振木琴チャイムをつくる」
9/30（月）	幌加内小学校	道北おとぼけキャラバン [音楽教室] in 幌加内小学校
11/8（金）	旭川市立富沢小学校	道北おとぼけキャラバン「音や音楽を楽しむ」～富沢小学校
12/23（月）	東神楽町東聖スマイルキッズクラブ	道北おとぼけキャラバン「クリスマス演奏会」at すまいるキッズクラブ
1/28（火）	木古内町立木古内小学校	探究おとぼけキャラバン
1/31（金）	留萌市立緑丘小学校	三拍子おとぼけキャラバン at 留萌市立緑丘小学校
2/4（火）	留萌市立緑丘小学校	管楽器おとぼけキャラバン at 緑丘小学校
2/4（火）	留萌市立留萌小学校	道北おとぼけキャラバン管楽器 at 留萌小学校

3. 決算

項目	金額
旅費（芳賀・盛田・土井・山田・吉田）幌加内町 2024/09/30	6,745
機材（音や音楽に係る実践：360度録音マイク）	44,000
機材（音や音楽に係る実践：モーションコントローラー）	19,800
大学バス使用に係る軽油代	1,981
旅費（芳賀）中頓別町 2025/01/24-2025/01/25（音や音楽に係る実践の打合せ）	7,474
合計	80,000

4. 実践に関する資料

本実践については、過去の研究紀要や新聞の報道の文章からも、「演奏の出前」「芸術の普及」「需要の発掘」を達成するものとなっていると考えられる。また、開発的実践に関する啓発にも資することができ、音楽の分野に留まらず、地域貢献としての効果を得られたと考えられる。さらに、本実践の意義として「演奏する学生にとっても、授業等の実践力の向上を図る場にする」「学生にとっては、通常の大学の授業によってのみでは得られにくい経験ができる」「音楽の授業に近い形態で行う本コンサートの取組においては、授業方法について学べ、聴衆を相手にして実践する中で、それを経験することができる」といった点も挙げられ、教職への意識や地方への関心等に向上が見られる。こうしたこれまでの評価と同様の成果が今年度も見られた。

以下に、今年度（令和6年度）分に関する参加学生の感想の抜粋と、新聞記事を掲出する。

○参加学生の感想の抜粋（抜粋。掲載文章については原文ママ）

だれかと1つの授業をつくれることの喜びを現場に出て肌で体感しながら実践できたことが何よりも大きな経験となりました。頭では分かっている自分自身のためだけに楽器と向き合う日々になりがちだったので、やはり子どもたちを目の前にすると、子どもたちの反応や期待に応えるためにも演奏を磨きたいと改めて強く感じました！今年の本実習に向けても中学校への出前授業にもぜひ行きたいです。貴重な機会を下さり本当にありがとうございました。

聴いて、感じて、考えて、能動的な鑑賞の授業を体験できて勉強になりました。3拍子でも、リトミックを取り入れた授業やリズムカードなど、勉強になりました。子どもたちの反応を通して、演奏の工夫が曲の解釈や感情にどれほど影響を与えるかを実感しました。彼らを感じたことを言葉にする様子を見ることで、演奏者としても新たな視点を獲得ことができました。そして、何よりも楽しんで授業ができたことが、私にとって最大の気づきです！大変貴重な経験をさせていただきありがとうございました！今後の活動にも活かしていきます。



2024年(令和6年)9月29日(日曜日)



木琴作り ぼうの長さで音調整

旭川で13人が参加し講座

子どもみらいキャンパス

旭川校で音楽を教える芳賀均先生が「ソラ・ド・レ・ミの5音をつくります」と声をかけました。材料は木のぼう(長さ約1メートル、円の直径2センチ)です。参加者は早速、ぼうを切り、それらをたたいて出る音とピアノの音が合うか確認します。見本の「ソ」と同じ長さにそろえても、ちがう音になる人がいました。「木の密度で音が変わります」と、理科が専門の森健二朗先生(釧路校)。同じ長さでも、木の密度が高いほど音は低くなるそうです。森先生は、空気の振動によって音が伝わる

旭川校で音楽を教える芳賀均先生が「ソラ・ド・レ・ミの5音をつくります」と声をかけました。材料は木のぼう(長さ約1メートル、円の直径2センチ)です。参加者は早速、ぼうを切り、それらをたたいて出る音とピアノの音が合うか確認します。見本の「ソ」と同じ長さにそろえても、ちがう音になる人がいました。「木の密度で音が変わります」と、理科が専門の森健二朗先生(釧路校)。同じ長さでも、木の密度が高いほど音は低くなるそうです。森先生は、空気の振動によって音が伝わる仕組みについても説明してくれました。

参加者は1単位でぼうを切つて音の高さを調整。その結果、低音よりも高音のほうが長くなったり、となり同士が同じ長さになったりした木琴もできました。それぞれ木の密度がちがうためです。

最後は完成した木琴で作曲や演奏を体験し、ゲームを楽しみました。道教大付属旭川小5年の音響百合子さんは「音を合わせる作業が大変だったけど面白かった」と笑顔で話しました。(中出幸恵)